

日本家族社会学会ニュースレター

No. 22 1999. 4. 16. 編集・発行 日本家族社会学会事務局
〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40 日本大学文理学部社会学科清水研究室
電話：03-5317-9713 FAX：03-5317-9423

NEWSLETTER

第9回大会プログラム作成状況と報告者募集

(研究活動委員会より)

1. シンポジウム

「21世紀の日本社会と家族のあり方」という継続テーマを立てることとし、その第1回として山田昌弘・神原文子両委員を中心に、「経済システムの変化と家族」を企画中です。

2. セッション報告

申し込受付の結果、6つの企画が出されましたので、以下のような配置でプログラムに組み入れるよう準備中です。(カッコ内はコーディネーター)

なお、下記4.のようにセッションの報告者募集があります。

1) 特別プログラム：

「第1回全国家族調査の実施経過と成果」(正岡寛司)

2) テーマセッション：

①「先進諸国における家族政策の新たな展開」(小島宏)

②「家族研究のための測定と方法(2)」(稲葉昭英)

③「全国サンプル個票データの利用による日米比較分析」(石原邦雄)

3) ラウンドテーブル：

「シングル増加の社会的な意義」(N. ネンシュティール)

4) 書評セッション：

「高齢者と家族—藤崎宏子・安達正嗣両会員の近著をめぐって」(渡辺秀樹)

3. 自由報告

4月末締め切りで募集中です。ふるって応募して下さい。

4. テーマセッション報告者公募中

上記のテーマセッションのうち、①②について、報告者を公募しています。関心のある方は、**至急(4月末日まで)**、セッションのコーディネーターまたは研究活動委員会(都立大・石原)にご連絡下さい。

①「先進諸国における家族政策の新たな展開」

コーディネーター：小島宏（社会保障・人口問題研究所）

連絡先：(mail)

(tel.) 03-3503-1711ex.4420 (fax) 03-3591-4821

一昨年のセッションの延長として開設します。たとえば、家族政策と雇用政策の関連が深まる動向や、ユーロ通貨統合との関連での家族政策の縮小などが問題になっていますが、広く標記のテーマに関わる報告の応募を期待します。

②「家族研究のための測定と方法（２）」

コーディネーター：稲葉昭英（都立大）

連絡先：(mail)

(tel.) 0426-77-2126 (fax) 0426-77-2124

昨年に続けて開設します。家族研究に必要な測定法、解析法、調査法などにつき、技法の理論的検討、経験的応用、尺度の作成や紹介など、広く関連する報告を募集します。

日本家族社会学会 第9回大会のご案内

(大会ニュース：No.2)

日本家族社会学会第9回大会実行委員会

〒108-8345 港区三田 2-15-45

慶應義塾大学文学部内

委員長：渡辺秀樹

日本家族社会学会第9回大会は、慶應義塾大学三田キャンパスで開催されます。東京駅や羽田空港から比較的近い都心にあつて交通も至便ですので、多くの会員の参加を期待しています。21世紀を間近にして、シンポジウムやテーマセッションなどで内容に特色のある実り多い大会となるよう願っています。実行委員会は大会会場を熟知する若手を中心に構成しました。軽快なフットワークと笑顔でお迎えできると思います。ご協力をお願いします。

1. 大会日程：1999年9月18日（土）／19日（日）の2日間

2. 大会会場：慶應義塾大学三田キャンパス

JR 山手線・京浜東北線「田町」駅下車、徒歩8分。

地下鉄 都営三田線「三田」駅下車、徒歩6分。

3. 大会参加費：

一般会員：4,000円 学生会員：3,000円

4. 大会・懇親会への参加申し込みと振込み：

大会および懇親会への参加申し込みは、7月中旬に発送予定のお知らせ（大会ニュース：No.

3) に同封する葉書でお願いします。なお、その際、参加費の事前振込みのご案内もいたします。

5. 宿泊：とくにご案内はいたしません。各自で手配をお願いします。

6. 実行委員会事務局：慶應義塾大学文学部・渡辺秀樹研究室

電話：03-3453-4511 内線 3089

FAX：03-3798-7480（文学部渡辺秀樹宛と明記のこと）

電子メール：

7. 実行委員会の構成（12名）

委員長：渡辺秀樹（慶應義塾大学文学部）

委員：稲葉昭英（都立大学）・西村純子（慶應義塾大学大学院）

竹ノ下弘久（慶應義塾大学大学院）・三浦直子（慶應義塾大学大学院）

小倉康嗣（慶應義塾大学大学院）・松田茂樹（慶應義塾大学大学院）

前田正子（ライフデザイン研究所）・武藤香織（医療科学研究所）

福田亘孝（国立社会保障・人口問題研究所）・末盛慶（都立大学大学院）

松信ひろみ（文教女子大非常勤講師）

8. 大会プログラム（予定——詳細は検討中）

第1日（9月18日 土曜日）

午前10時：自由報告

午後1時：ラウンドテーブル、書評セッションほか

3時：特別プログラム＝全国家族調査報告

4時30分：総会

6時：懇親会

第2日（9月19日 日曜日）

午前9時30分：テーマセッション

午後1時30分：シンポジウム



理事会報告

委員会から

研究活動委員会

1. 大会プログラムの編成

大会実行委員会と協力して進めています。なお、テーマセッション報告者公募もしています。(1頁参照)

2. 学会ホームページの開設について

杉岡直人委員のもとで具体案を検討中です。秋の学会大会までに、試作品をテストすることになりました。掲載内容の幅広さもさることながら、トラブル防止のためのチェックや責任体制の整備も重要な検討課題になっています。ページづくりのアイデアや、人手を募集しています。ご連絡下さい。

3. 出版活動について

ミネルヴァ書房からの、家族社会学シリーズ企画のうち、理事会でゴーサインの出ている「現代の子育てと親子関係」(仮題)は編者の神原会員のもとで進行中です。また、企画の建て直しを余儀なくされた「理論と方法」(仮)の巻は、野々山会員のもとで再編成作業が進められています。シリーズ出版企画に

つきアイデアがありましたら、自薦・他薦を問わずお知らせ下さい。

4. 国際交流活動

学会間の交流という側面よりも、国際会議等の情報交換のほか、とりわけ来日研究者との交流の場を実質化することなどを重視する方針で、三谷鉄夫委員を中心に検討中です。

(石原邦雄・都立大学)

編集委員会

3月6日の理事会において、以下の報告を行い、了承されました。

1. 『家族社会学研究』11号は、巻頭エッセイ、特集、投稿論文、研究動向、書評、文献紹介などで構成し、現在、投稿論文審査の最終段階に入っていること。
2. 11号から巻末に著作権の表示を行う予定であること。
3. 印刷所を「春日」から「トープ」に変更予定であること。
4. データベース委員会から引き継ぎのあつ

た会員文献目録の修正は、正誤表を印刷し、11号に折り込む予定であること。

5. 文部省学術定期刊行物出版助成の申請が行われたこと。

(島中宗一：大阪市立大学)

全国家族調査委員会

1999年1月に第1回全国家族調査を実施することができました。全体のサンプル数10,500、調査完了数は6,985、回収率66.5%でした。今後の予定は以下の通りです。

調査会社からデータが納入された後(4月以降)、データクリーニングの作業を開始します。9月の学会大会には調査の概要を特別プログラムの形で報告いたします。大会参加の会員には質問紙など資料を配布する予定です。NFR(全国家族調査)研究会メンバーには、6月頃に質問紙とデータ利用の申し込み書類を送付して、分析の計画をたてていただきます。メンバーの分析計画を踏まえ、研究グループを構成して研究を進め、報告書の作成をめざしたいと思います。データの配布は学会大会終了後を予定しています。

詳しくは、NFR研究会メンバーには6月(前述の資料送付時)、会員の皆様には大会特別プログラムでの報告およびNFRレター(大会時発行予定)でお知らせします。引き続きご協力をお願いします。

(渡辺秀樹：慶応義塾大学)

データベース委員会報告

1. 文献情報データベースについて

日本家族社会学会が会員から収集した家族関係の文献情報は、日本社会学会の社会学文献情報データベースに統合されて、文部省学術情報センター(<http://www.nacsis.ac.jp>)および富山大学(<http://jinbun1.hmt.toyama-u.ac.jp/Socio/jss>)と立教大学(<http://sociodb.rikkyo.ac.jp>)におかれた日本社

会学会独自サイトにおいて、1998年10月より公開されています。現状では、家族社会学会が収集した情報と日本社会学会が『社会学評論』掲載の著作目録から入力した情報が重複して、1つの文献が2回登録されている場合がありますが、近いうちに一方(具体的には家族細分類コードの無い『評論』データの方)を削除する予定です。

なお、公開されているデータに誤りを発見した場合には、独自サイトに用意されている修正方法を用いて、ご自分で修正情報を送ってください。日本社会学会データベース委員会が確認したうえで公開情報を更新します。また、過去に遡って申請漏れの文献を追加申請したいというご希望があるかと思いますが、1979年以降の文献情報が公開された後、本年10月頃から、あらためて追加申請を受け付ける予定です。

2. 会員文献調査の方法

1月末に締め切った1998年分の文献調査では、データ入力に間違いが生じにくいよう改訂した調査用紙を使用しました。その後に行われた日本社会学会の文献調査でも、家族社会学会が用いたのとほぼ同じ様式が採用されました。原文が日本語の著作のタイトルや雑誌名にも英訳を付けるのは無駄ではないかとの意見もありますが、日本社会学会では今後、IBSS(International Bibliography of Social Sciences)に情報を提供するため、英訳が是非必要ですのでご協力をお願い致します。

また、会員の方から、文献調査用紙のフォームをwebサイトからダウンロードできるようにしてほしいとの要望をいただきました。そうすればワープロ機能を用いてフォームに書き込めるようになりますので、次回からは是非実行したいと考えています。サイト上で各自が自分で情報を入力できるようにすることも技術的には可能ですが、記入者が会員であることの確認が

難しく、いたずらが発生する可能性もありますので、この方法は採用しません。

3. データベース委員会の活動

日本家族社会学会は独自のデータベースを作らず、日本社会学会の社会学文献情報データベースに情報を統合するという方法をとっているため、また双方のデータベース委員を兼任して

いるケースも多いため、家族社会学会データベース委員会は日本社会学会データベース委員会と緊密に連絡を取り合って仕事をしています。家族社会学会会員の文献調査は家族社会学会が、入力・校正・修正情報の受付等は日本社会学会データベース委員会が、それぞれ行うという分担です。

(落合恵美子・国際日本文化センター)

事務局便り

1. 事務局の交代について

日本家族社会学会の事務局は、1999年4月から日本大学文理学部社会学研究室に移りました。事務局の住所などは、以下のとおりです。

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-5-40

日本大学文理学部社会学科清水研究室内

電話：03-5317-9713

FAX：03-5317-9423

2. 事務局一部業務外部委託に伴う変更事項について

住所や所属変更は、郵便・ファックスで学会事務局までお知らせください（振替用紙の通信欄は使用しないでください）。会費納入、新規入会、機関誌購読のお問い合わせは、これまでと同様、事務局までお願いします。

3. 学会費の値上げと学会費の納入方法のお知らせとお願い

学会費は、1999年度より通常会員7,000円、大学院生5,000円となります。なお、学会費は学会大会時に直接納入することはできませんので、郵便振替をご利用ください。

4. 委員委嘱について

1999年3月6日の理事会で、第9回学会大会の大会実行委員、および事務局委員（追加）が決定しましたので、各委員に委嘱状を送付しました。

まだ、私ども、事務局の仕事に不慣れで会員の皆様にはご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、何卒よろしく願いいたします。

(清水浩昭・日本大学)

会員異動

(1999年3月6日理事会承認および4月6日までの会長承認)

編集後記

久しぶりに予定通りの発行となりました22号をお届けします。第9回学会大会での自由報告およびテーマセッション①②の報告者を募りたい意を込めての発行です。「大会ニュースNo2」の記事もご参照の上、なにとぞ応募をご検討ください。なお、発行を遅延できない事情のため、エッセイ欄「北から南から」は引き続き休載さ

せていただきました。また、本号以降しばらくの間、本ニュースレターの編集作業には中尾暢見事務局委員の協力を得ることになりました。前任者の西野理子会員と、急遽リリーフ役を果たしてくれました嶋崎尚子会員に感謝いたします。
(藤見純子・大正大学)